

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

本学の教育理念は、学校法人濱名山手学院の建学の精神を原点としている。昭和25年に兵庫県尼崎市に設立された愛の園幼稚園は「以愛為園（愛を以て園と為す）」を建学の精神とし、他人に対する人間愛を育む学園であることをめざし、子どもたちには他人に対する思いやりを重んじ、教職員には教育愛あふれる学園づくりを求めた。

この建学の精神に基づき、その精神を大学教育で具現化するために、平成10年の開学時に制定したのが「関西国際大学の教育の理念」である。教育理念では「関西国際大学は、世界的視野にたち人間愛にあふれ、創造性豊かで、行動力のある人間の育成をめざす知性あふれる学問の場である」と規定し、以下の3つを具体的な教育理念として掲げている。

1. 自律できる人間であろう
自己に厳しく、たえず努力し続ける人間になろう。
2. 社会に貢献できる人間であろう。
自ら創造し、積極的に行動する人間になろう。
3. 心豊かな世界市民であろう。
世界の人々と共に生き、互いを高め合う人間になろう。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

この数年間、コロナ禍の影響によりインターネットの活用が格段に進展した。その結果、会議の持ち方や就労のスタイルが大きく変わった業種もある。さらに生成AIをはじめ、人工知能の技術も様々な面で実用化されてきており、情報分野で活躍できる人材育成が急務となっている。そこでこの要請に応える教育組織とするために、社会学部社会学科に配置しているデータサイエンス専攻に関するカリキュラムを土台に、情報分野の幅広い知識及び技能を修得し、課題発見・解決力とコミュニケーション力を身に付け、現代社会が直面する諸問題に対して情報分野の知識及び技能を実践的に活用する人材の育成を目的とする。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

本学の設置母体である学校法人濱名山手学院は、「以愛為園（愛を以て園と為す）」の精神のもと、幼稚園及び幼稚園教員養成所を設立し、以来、「愛」とは相互愛で有り、人との関わりは、相互に愛と信頼があってはじめて成立するものであるという考えにより発展し、現在に至っている。これが大学としての教育理念の根幹をなすとともに、初等・中等教育の教員養成の理念ともなっている。

本学の教育理念については、「以愛為園」の精神を具現化する行動目標を次のように示している。すなわち、相互の愛と信頼が成立するためには、まず、個人が自律した人間として成長しなければならず、自己に厳しく、たえず努力し続ける人間であることが求められる。そして、自己の外の世界に積極的に働き掛け、社会に貢献することを志す存在であろうとし、そのために、世界の人々とともに生き、互いを高め合う「世界市民」としての自己を形成していくことが求められる。

教員養成の構想に照らし合わせてみれば、専門職としての自律性を確保しつつ、さらに自己の職能を高めていくため、自らが学び続ける学習者となりうる教員像が目指すべき目標となる。同時に、他者との共感と協働の意識を育て、児童生徒やその保護者および同僚教員や学校を取り巻く地域住民との相互信頼を基礎として日々の教育活動にまい進できる教師、グローバルな問題関心にたえず導かれながら、異文化理解を通じて人間文化の多様な価値の在り方を認められるような教師を理想とし、その理想に一步一步近づいていくための日々の努力とその組織的な学びの体系が、教員養成課程の要諦となる。これが、本学における教員養成の理念である。

本学は、建学の精神を活かし、グローバルな視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、安全な社会やコミュニティづくりに向けて総合的に活用できる人材を育成することを目的としている。その教育目標は、「自律的で主体的な態度（自

律性)」「社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性)」「多様な文化や背景を理解し受け容れる能力(多様性理解)」「課題発見・解決力」「コミュニケーション力」「専門的知識・技能の活用力」を総合的に活用できる人材の養成である。これらの教育目標を具現化する方策として、「KUISs学修ベンチマーク」の制定や「グローバルスタディ」といったプログラムが位置づけられている。

「KUISs学修ベンチマーク」のルーブリックにより、学生自らが、教育研究活動などの状況について点検と評価を行うことで、将来、学生が学校教員として教壇へ立った折には、自己点検や自己評価を行うことへ援用することが可能である。

「グローバルスタディ」は、卒業までに「交換留学」「海外サービスマーケティング」「海外フィールドスタディ」「海外インターシップ」等のプログラムを選択するものである。これらは、世界の人々の多様な価値観を理解し、自ら考え、行動できる人材育成のための「体験」を中心とした学修プログラムである。教育現場では、海外から来日した子どもや帰国した子どもの教育が大きな課題となっている昨今、本プログラムを通してグローバルな視野に立った視点から海外の教育について学ぶ機会ともなっていることから、今日の教育的課題へアプローチすることが期待できる。

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

情報学部情報デザイン学科では、情報学、クラウド技術、ソフトウェア、データサイエンス、AIなど情報分野の知識・技能を基礎から段階的に修得する。そのうえで、履修モデルとして、AI等の先端技術を習得し、アプリケーション・ソフトの開発を担うITエンジニアを養成するコースと、エンジニアとユーザーの橋渡し役を担い、ICTを社会実装できるAI活用人材を養成するコース、AI・ICTを活用し情報を表現して、魅力のある製品や広報物をデザインして発信できる人材を養成するコース等を設定する。

情報デザイン学科の高校情報教職課程では、学生がいずれの履修モデルを選択しても情報の基本的な知識・技能、社会実装に必要な課題発見・解決力およびコミュニケーション力、そして安全な社会やコミュニティづくりのための倫理意識、社会的貢献性、創造性を身につけることが可能である。自らが教壇に立ち、社会で活躍したい、あるいはさらなる知識・技術を得るために進学したいと考える高校生に対して、情報の知識・技術のみならず、人間性や倫理観を涵養することができる教員を輩出する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨(学科等ごとに校種・免許教科別に記載)

<高校情報>

高等学校情報の課程について、情報学部情報デザイン学科は、学部の設置主旨から様々な情報に関する知識・技術に関する科目を網羅しており、それらのカリキュラムは情報社会情報倫理、情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現・マルチメディア技術など高校情報の教職課程で定める内容を網羅している。

また、学科のカリキュラムについて、ここ数年で喫緊の課題として様々な情報化社会の進展があり、現代社会における情報の知識・技術の必要性は急務となっており、令和4年度から施行された新高等学校学習指導要領等からも情報に関する育成は必須事項とも言える。

情報学部情報デザイン学科では、個人の資質の向上や知識、技術の修得だけでなく、他者と協力する力や問題解決能力を身につけるための科目、危機管理に関する学修を網羅しており、安全・安心を脅かす事象が多発する社会に対応できる人材を育成し、これらの学習を通じて、国や地域の抱える問題の多様性・複雑性を受け入れ、教員養成に欠かせない課題解決に向けて努力する態度を養う。

情報デザイン学科の教育目標は、求められる教員像の条件に合致し、卒業後の進路として高校の情報教員を目指す教職課程を置き、ニーズを満たす教員を輩出することは学科の理念とも合致しているため、高校情報の課程を設置する。

様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

① 「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」

教員研修分野における、共同実施事業、独立行政法人教員研修センターに採択

② 尼崎市、伊丹市、西宮市、神戸市等の教育委員会と連携協力に関する協定

尼崎キャンパスでは、相互の教育事業、教育活動の充実、発展に寄与することを主な目的として、学校園等の教育現場を体験する機会や、教育活動及び地域の各種活動への支援等について、各市の教育委員会と協力体制を取っている。

③ 大学院心理臨床室における無料相談会の実施

三木市教育委員会の後援を受け、子育て支援の一環として、保育園・幼稚園・小学校・中学校の児童・生徒、または、その保護者を対象に、無料の相談会を開催している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称： 教育保育インターンシップ（インターンシップ）

連携先の調整方法： 包括協定に基づき、学科及び科目担当者が調整

具体的な内容： インターンシップのうち、特に、教育現場を対象としたインターンシップとして、教育保育インターンシップを設置している。教育保育インターンシップはⅠ～Ⅲまでが用意されており、介護等体験等が開始される前の、1年次から3年次において実施される。「教育保育インターンシップⅠ」においては、年間を通して、職場体験の基礎・基本を学ぶ。・保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校などの概要と、そこでの1日の生活内容、教師や保育士としての仕事の内容を学ぶ。さらに、社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解を深める。

インターンシップⅡ、Ⅲにおいては、実際に各職場に出向き業務活動を行う。定期的に、大学で講義を行うことや、受け入れ先の種別に集まり、各職場での業務活動や各自のテーマに沿った振り返りを行わせながら、体験と知識の総合化を図る。

②

取組名称： サービスラーニング

連携先の調整方法： 協定に基づき学科や科目担当者が調整

具体的な内容： 教職を目指す学生のボランティア活動や教員が専門的立場から各種委員会、審議会等へ参加することや教育相談の実施などにより、地域の教育課程の解決に協力する。

研修会講師の派遣、大学主催の子ども・保護者向け教室、教育研修講座の開催、大学施設の開放、免許更新講習の実施、学校との共同研究など、地域教育の充実推進に連携協力を行う。

③

取組名称： サービスラーニング 地域のアフタースクールでの活動

連携先の調整方法： コーディネーターと科目担当の教員がカウンターパートナー(地域の受入先)と調整

具体的な内容： 学生の社会的実践力を高めるための『教室での専門的な学び』と『社会貢献活動』

様式第7号イ

との統合を図る取組を進めている授業プログラム(サービ斯拉ーニング)の中において、地域のアフタースクールでの活動をしている。サポート要員として毎週参加し、子どもたちとの関わりの中で生じた疑問や課題などを取り上げ、専門知識との関連づけを行いながら、学生の活動の質を高めるために授業でふりかえりを実施している。

④

取組名称： 子育て支援室の設置、運営

連携先との調整方法： 運営者と担当教員間との調整

具体的な内容： 専門相談員による、子どもの言葉や体の発達の遅れが気になっている保護者の相談、集団での友達とのトラブルなどが絶えない子どもの保護者の悩み相談、医師により診断を受けているが、育て方、日常生活での具体的なかわり方がわからず悩んでいる保護者へのアドバイス、保育所、幼稚園、学校などで「苦戦をしている」子どもたちへのサポート、保育、療育等の指導方法の具体的なアドバイスを提供する。

⑤

取組名称： スクールサポーター事業

連携先との調整方法： 教育委員会の要項に従い、大学は学生の募集を行う。指定様式により、希望した学生の登録申込を大学から委員会に提出する。派遣を希望する学校は登録者から活動に応じた学生を選び、学校より大学に依頼する。決定後、学校から教育委員会へ派遣申請を行う。

具体的な内容： 教員志望の学生を園や学校に配置し、授業の補助および学級活動・行事の補助等を行う。

Ⅲ. 教職指導の状況

入学者に対する教職課程のガイダンスは、新入生対象のオリエンテーションから始まり、2年次当初のガイダンスでさらに細かな履修指導を行う。2年次開始時に、中高教員の教職課程履修を希望する学生に絞って、教育実習から教員採用試験までを当面のゴールと想定した履修計画を意識させる。

免許法に基づく科目履修要件と教師に求められる資質能力をまず展開して、在学中の単位取得、介護等体験および教育実習等の実習先選定の手続き等、学生が自主的に学習スケジュールを管理できるように指導する。

教科教育法の進展に合わせて、授業実践のシミュレーション機会を適宜設け、教材研究・指導案作成・板書計画など授業技術と教育方法に関わる実践の指導は、教育実習を担当する専任教員が学生の求めに応じて、オフィスアワーの時間も活用して追加相談に乗る。教員採用試験に向けたアドバイスも、専任教員が学修支援センターにて相談に応じている。

様式第7号ウ

<情報デザイン学科> (認定課程: 高校情報)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>大学で学ぶ内容について見取り図を描きながら、4年間の学習計画を立てられるようになること。 専門外の教養領域にも幅広く関心を持ち、自己の知的キャパシティの拡大に意欲を持つこと。 正課・正課外を問わず、様々なグループワークに積極的に参加して、共同作業の意義と成果を自己分析できるようになること。 学科の基礎科目を履修し、情報分野の基本的な知識・技能を段階的に修得する。 教職の入門として、教育学概論の講義を通して、教育学の基本的知識を習得すること。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、学科の基礎科目を履修し、情報分野の基礎的な知識・技術を培う。 情報分野の知識を理解するために必要な数学及びプログラミングの基礎を学ぶ。 専門外での教養領域での学習を深めつつ、教師に求められる能力の一つとして、授業と学習支援を通じて基礎を固め、幅広い教養を身につける。 自己分析能力を身につけ、自己の到達点を適正に省察できるようになること。</p>
2年次	前期	<p>教職課程独自の科目履修が本格的に始まる。教職概論等の教育の基礎的理解に関する科目を通して、教職の意義を理解し、自己の目指す教師像を明確にすること。 専門科目については情報分野の基本的な知識・技能を段階的に学び、運用能力を向上させる。 教科教育法等の学習を通して、教職に必要な能力的資質について考察し、使命感、適性、一般教養等の各分野で自己の到達水準を正しく把握し、以後の学習計画に反映させて具体的学習計画を立てられるようになること。</p>
	後期	<p>専門科目については情報分野の基本的な知識・技能を段階的に学ぶとともに応用技術等を学び、運用能力をさらに磨く。 学校経営論や教育課程論など、教科教育以外の教育の基礎的理解に関する科目や生徒指導、教育相談等に関する科目の分野への学びを広げていく。</p>
3年次	前期	<p>学科の専門科目や教養的内容の科目を履修し、2年次後期までに得た情報分野の基本的な知識・技能を活用するための、社会を理解する科目を履修することで応用力を養成する。 教育の基礎的理解に関する科目、教科に関する科目、教職に関する科目の学習により、教職で求められる知識や心構え等を学ぶ。 高校の学習項目や指導方法にも理解を深める。</p>
	後期	<p>教育実習を次学期に控え、経験学習の実践を行う。 国内外の企業や地方自治体等と連携した経験学習を通して、実践的な知識・技能を身に付ける。 生徒の発達段階を理解し、教育制度や生徒指導、学級経営に必要な知識を身につける。 学習指導要領に定められている教授すべき内容を踏まえて、高校生に合った教材を工夫し授業を組み立てられるようになること。</p>
4年次	前期	<p>情報分野の知識・技能を実践的に活用するための展開科目を履修しつつ、教育実習が中心になる。 学校現場での実体験を通して教職の意義を再確認する。 教材研究、授業実践、生徒指導、学級経営、進路指導等に直接関わり、校務を分担することで、教職を実際に体験し、経験を積むこと。 実習終了時点における強み弱みを自己分析して、教員採用試験に向かう態勢を整えること。</p>
	後期	<p>教育実習を終え、教員採用試験も一段落している。 教職実践演習を通して、高校教員として適切に職務が実践できる資質能力の確認と自己評価を行う。 自分の得意・不得意な分野を認識し、卒業後、引き続き学ぶべき事柄について見通しを立て、具体的な目標と学習計画を立てられるようになること。 高校生に対する進路指導に必要な情報の収集や校務等について、他の教職員と協働できる協調性を身につけること。</p>

様式第7号ウ（教諭）

＜情報デザイン学科＞（認定課程： 高校情報）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期		プログラミング演習Ⅰ		英語の論理Ⅰ	学習技術	
					英語コミュニケーションⅠ		
					生涯スポーツⅠ		
					ICTリテラシー		
	集中	教育学概論					
	後期			情報リテラシーと情報倫理	自然と災害	英語の論理Ⅱ	
				プログラミング演習Ⅱ		英語コミュニケーションⅡ	
						生涯スポーツⅡ	
						日本国憲法	
	集中			ボランティア論			
2年次	前期	教職概論	情報と社会				
		特別支援教育基礎	情報科学				
		教育相談	情報管理論				
		教育心理学	情報科指導法Ⅰ				
			ネットワークとデータベース				
	集中	総合的な学習の時間の指導法					
	後期	学校経営論	情報科指導法Ⅱ				
		生徒・進路指導論					
	集中	教育課程論					
3年次	前期	特別活動の指導法	システム設計の理論と実践				
			データサイエンスⅡ				
	後期	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	情報セキュリティ演習				
	集中			地域防災減災論			
4年次	前期	教育実習Ⅰ					
	後期	教職実践演習(中・高)					